

施策 1 医療機能の充実・強化

川崎病院

取組項目	令和7年度の主な取組内容	取組目標名	R7年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R6年度実績値
取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化							
①救命救急医療の強化	①ソフト・ハード両面での救命救急患者受入能力の強化 ②かわさきコロナリーホットラインの利用促進 ③脳卒中患者受入体制の維持・強化 ④新救命救急センター運用準備・活用 ⑤救命救急センターへの専任薬剤師の配置維持	かわさきコロナリーホットライン応需件数	110件	29件	58件	52.7%	57件
		救命救急センターへの救急救命士配置数	1人	3人	3人	300.0%	3人
		救命救急センター棟の整備	運用開始	整備中	整備中	-	実施
②災害医療機能の強化	①災害対策マニュアルの改定による病院危機管理体制の充実 ②災害医療企画室による災害時医療体制強化の検討 ③各種訓練実施・参加（ブラインド型訓練含む） ④DMAT及び川崎DMAT活動の充実 ⑤3日以上以上の備蓄品（食料、飲料水、医薬品）の確保と適切な補充・交換 ⑥災害対策マニュアル及びBCPの改定	院内災害医療訓練の実施回数	2回	0回	3回	150.0%	2回
③プレホスピタル活動の充実	①救急ワークステーションの設置（川崎病院における市内救急医療派遣事業「Kawasaki ONE PIECE」の発展的解消） ②救急隊からの要請に基づく医療チームの現場派遣 ③救急隊員（救急救命士）の研修支援	救急ワークステーションの設置	運用開始	建築工事	建築工事	-	建築工事
		医療チームの現場派遣件数	48件	2件	4件	8.3%	1件
取組項目(2) がん診療機能の強化・拡充							
①高度手術医療の推進	①5大がん（胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん、肺がん）の手術治療の強化 ②脳神経外科、婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科等が扱うがんの手術治療の推進 ③鏡視下手術、内視鏡手術の推進 ④ロボット手術センターの運営	悪性腫瘍手術総件数	680件	365件	730件	107.4%	764件
		悪性腫瘍手術件数のうち肝胆膵高難度手術件数	50件	30件	60件	120.0%	50件
		鏡視下、内視鏡下で施行した悪性腫瘍手術件数	440件	195件	390件	88.6%	380件
		手術支援ロボットで施行した悪性腫瘍手術件数	94件	104件	208件	221.3%	137件
②放射線治療・化学療法等の推進	①がん集学的治療センターの運営 ②放射線治療の推進 ③薬物療法のための外来治療センターの拡充 ④白血病など血液悪性腫瘍への適切な対応	外来治療センターの拡充	工事	-	-	-	-
		化学療法延べ患者数	10,000人	3,584人	7,168人	71.7%	6,552人
		放射線治療延べ件数	2,650件	1,137件	2,274件	85.8%	2,285件
		血液悪性腫瘍に対応した無菌室5室の病床稼働率	100.0%	101.6%	101.6%	101.6%	92.3%

※原則R7.4月～9月（6か月間）の実績値を記載しております。
※年度途中の算出が難しい項目は「－」としております。

取組項目		令和7年度の主な取組内容	取組目標名	R7年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R6年度実績値
③緩和ケア医療の充実	①緩和ケアチーム活動の充実 ②地域連携の強化を通じた緩和ケアの普及		緩和的放射線治療件数	110件	77件	154件	140.0%	146件
			緩和ケアチーム回診回数	週6回	週5回	週5回	83.3%	週4回
			緩和ケアチーム回診延べ患者数	1,800人	2,070人	4,140人	230.0%	3,120人
			緩和ケアに関する教育・研修会の開催回数	2回	1回	2回	100.0%	2回
④がん相談体制等の充実	①がん相談支援センターの運営 ②がん相談専門員の育成 ③就労支援相談体制の確立		がん相談員基礎研修(1)(2)の受講人数	2人	0人	0人	0.0%	2人
			がん相談員基礎研修(3)の修了者在籍人数	2人	2人	2人	100.0%	2人
			がん相談件数	420件	250件	500件	119.0%	379件
			がんサロン開催回数	6回	4回	8回	133.3%	8回
⑤がん検診の推進	①がん検診体制の維持 ②がん検診実施の周知・啓発		肺がん検診実施件数	1,150件	431件	862件	75.0%	1,215件
			大腸がん検診実施件数	1,050件	391件	782件	74.5%	1,089件
			胃がん検診実施件数	810件	287件	574件	70.9%	788件
			子宮がん検診実施件数	385件	189件	378件	98.2%	393件
			乳がん検診実施件数	460件	201件	402件	87.4%	524件
			前立腺がん検診実施件数	200件	68件	136件	68.0%	195件
			がん検診に関連した市民啓発企画実施回数	1回	0回	1回	100.0%	1回

※原則R7.4月～9月(6か月間)の実績値を記載しております。
※年度途中の算出が難しい項目は「－」としております。

取組項目	令和7年度の主な取組内容	取組目標名	R7年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R6年度実績値
取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実							
①感染症医療の確保（第二種・新興感染症）	①感染症を専門とする医師や認定看護師の安定的な確保 ②第二種感染症指定医療機関の運営 ③新型コロナウイルス感染症への対応 ④新興感染症への対応準備	感染症対応訓練の実施	1回	1回	1回	100.0%	1回
		新興感染症に備えた医療材料備蓄や医療機器の確保の取組	2か月分	2か月分	2か月分	100.0%	2か月分
②小児・周産期医療の充実	①地域周産期母子医療センターの安定的な運営 ②新生児特定集中治療室（NICU）及び新生児回復治療室（GCU）の安定的な運営 ③周産期救急患者の積極的かつ安定的な受入れ ④川崎市小児病院群輪番病院（2次）への参加と小児急病センター（1次）の縮減 ⑤小児科病棟における病室構成の見直し ⑥極低出生体重児（1,500g未満児）の入院受入れ	新生児集中治療室（NICU）の病床稼働率	85.4%	83.6%	83.6%	97.9%	89.1%
		新生児治療回復室（GCU）の病床稼働率	27.7%	27.1%	27.1%	97.8%	35.3%
		分娩室の改修・立合分娩の実施	準備	-	-	-	準備
		分娩件数	700件	322件	644件	92.0%	660件
		無痛分娩件数	48件	18件	36件	75.0%	41件
③精神科医療の充実	①精神科救急医療の対応強化 ②修正型電気痙攣療法（m-ECT）の実施 ③精神疾患を有する身体合併症患者の診療支援（病病連携、院内他科連携）	院内他科からの依頼件数	450件	201件	402件	89.3%	424件
		精神科救急夜間受入当番日の拡大	拡大（週2回）	週1回	週1回	-	週1回
		精神科病院・診療所からの紹介件数	100件	52件	104件	104.0%	105件
		精神保健指定医数	3人以上	4人	4人	133.3%	4人
④特殊治療の推進	①画像下治療（インターベンショナル・ラジオロジー（IVR））の実施 ②心臓カテーテルアブレーション治療の実施 ③脳神経内科と連携したパーキンソン病の診断と脳深部刺激療法（ディープ・ブレイン・スティミュレーション（DBS））の実施 ④ロボット支援による人工膝関節置換術の実施 ⑤強度変調回転放射線治療（VMAT）の実施	画像下治療（IVR）手術実施件数	580件	256件	512件	88.3%	536件
		経皮的冠動脈形成術（PCI）実施件数	210件	103件	206件	98.1%	189件
		心臓カテーテルアブレーション治療実施件数	40件	23件	46件	115.0%	38件
		脳深部刺激療法（DBS）実施件数	14件	11件	22件	157.1%	17件
		ロボット支援による人工膝関節置換術件数	30件	16件	32件	106.7%	25件
		強度変調回転放射線治療（VMAT）実施件数	80件	37件	74件	92.5%	128件
		呼吸同期放射線治療実施件数	3件	1件	2件	66.7%	3件

※原則R7.4月～9月（6か月間）の実績値を記載しております。
※年度途中の算出が難しい項目は「－」としております。

取組項目		令和7年度の主な取組内容	取組目標名	R7年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R6年度実績値
⑤認知症疾患医療センターの運営		①もの忘れ外来、もの忘れ相談室の適切な運営 ②地域医療機関との連携強化（広報・会議・研修）	もの忘れ相談件数	1,100件	1,044件	2,088件	189.8%	1,905件
			もの忘れ外来患者数	220人	129人	258人	117.3%	229人
			認知症に関する地域医療従事者向け研修の実施回数	1回	1回	1回	100.0%	1回
⑥内視鏡診療の充実		①内視鏡治療センターの安定的な運用による質の高い高度な内視鏡診断・治療の提供 ②365日緊急内視鏡検査に対応できる体制の維持 ③再編整備事業による内視鏡センターの拡張（令和7年度運用開始見込）（3室→5室）	緊急内視鏡検査件数	320件	125件	250件	78.1%	267件
			内視鏡治療件数	1,200件	676件	1,352件	112.7%	1,212件
⑦診療支援部門の専門職による取組の推進		①病棟における薬物療法の質の向上と医療安全確保（病棟への薬剤師配置） ②リハビリテーション実施体制の強化 ③放射線診断機器、放射線治療機器の的確な運用 ④検査業務の的確な運用 ⑤医療機器の運用及び保守点検 ⑥病状・病態に応じた的確な栄養指導の実施 ⑥臨床工学技士の医療機器の定期保守点検の実施	薬剤師の病棟配置数	全14病棟	全14病棟	14病棟	100.0%	全14病棟
			薬剤管理指導料算定件数	25,000件	10,588件	21,176件	84.7%	19,327件
			リハビリテーション実施単位数	200,000単位	80,417単位	160,834単位	80.4%	157,311単位
			P E T－C T運用件数	1,100件	588件	1,176件	106.9%	1,181件
			夜間・休日における緊急画像診断検査の実施回数	5,600件	3,495件	6,990件	124.8%	6,627件
			臨床検査精度管理の実施回数	1回	1回	1回	100.0%	1回
			専門外来を含めた疾患別栄養指導料算定件数	2,200件	1,104件	2,208件	100.4%	2,282件
⑧チーム医療の推進		①栄養サポートチーム（NST）・摂食嚥下支援チーム（SST）による専門性の高いチーム医療の提供 ②褥瘡対策チーム医療の推進 ③呼吸サポートチーム（RST）医療の推進 ④排尿ケアチーム医療の推進 ⑤非がん患者に対する緩和ケアの推進 ⑥早期離床チームの取組推進 ⑦倫理コンサルテーションチームの活用	N S Tラウンドの実施人数	700人	371人	742人	106.0%	746人
			摂食嚥下支援チームラウンドの実施延べ人数	1,000人	261人	522人	52.2%	737人
			呼吸サポートチーム介入患者延べ人数	250人	62人	124人	49.6%	125人
			排尿ケアチームラウンドの実施件数	48回	26回	50回	104.2%	50回
			緩和ケアチーム回診患者延べ人数（再掲）	1,800人	2,070人	4,140人	230.0%	3,120人
			褥瘡（推定）発生率	1.15%以下	0.80%以下	0.80%以下	143.8%	1.23%

※原則R7.4月～9月（6か月間）の実績値を記載しております。
※年度途中の算出が難しい項目は「－」としております。

取組項目		令和7年度の主な取組内容	取組目標名	R7年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R6年度実績値
⑨専門看護師・認定看護師・特定行為研修修了看護師による取組の推進		①専門看護師、認定看護師及び特定行為研修修了看護師による看護の質の向上 ②専門看護師、認定看護師及び特定行為研修修了看護師の計画的な育成、支援 ③特定行為研修修了看護師による取組の推進 ④NP（Nurse Practitioner）導入に向けた調査・研究	専門看護師・認定看護師の分野数	14分野	17分野	17分野	121.4%	17分野
			特定行為研修を修了した看護師の人数	6人	8人	11人	183.3%	8人

取組項目(4) 医療安全の確保・拡充

①医療安全対策の推進	①医療安全対策加算1に係る施設基準の維持（職員研修の実施、医療安全管理者の確保、各部門への支援と記録作成等） ②医療安全対策地域連携加算1に係る施設基準の維持（専任職員確保、年1回の相互ラウンド等） ③基礎的な医療安全対策の充実（院内委員会の開催等） ④医療安全に関する患者・家族からの相談への適切な対応	医療安全に関わる院内委員会の開催回数	12回	6回	12回	100.0%	12回
		インシデントレポートの提出（報告件数）	4,000件	3,388件	6,776件	169.4%	6,123件
		医療安全研修会の開催回数	12回	6回	12回	100.0%	21回
②院内感染対策の推進	①感染制御チーム（ICT）による活動の推進 ②感染症対策に資する病室（個室）の整備検討	感染制御チーム（ICT）ラウンド回数	50回	24回	50回	100.0%	50回
		感染管理研修会の開催回数	30回	17回	34回	113.3%	33回

取組内容の状況と分析、今後の方向性

【取組内容の状況と分析】	
【取組項目（1）救急・災害医療機能の強化】 昨年度に引き続き、救急車受入件数や三次救急応需率は、高い数値を維持しており、救急車受入件数は、上半期4,503件受入れをし、年度見込約9,000台のペースで受入れしています。さらに、三次救急応需率についても99.4%と目標値（98.0%）を達成する見込みです。また、9月5日、6日に厚生労働省主催の「大規模地震時医療活動訓練」に参加し川崎病院DMAT隊が岩手県まで現地入りして、それぞれ活動を行いました。	
【取組項目（2）がん診療機能の強化・拡充】 手術支援ロボットで施行した悪性腫瘍手術件数は、上半期実績の104件と昨年度より増加し、目標値（94件）を大幅に達成する見込みです。また、新たに肝臓がんと結腸がんのロボット支援手術に係る施設基準の届出を行いました。	
【取組項目（3）高度専門医療の確保・充実】 緩和医療専門医、緩和ケア認定看護師を中心とした緩和ケアチームは、地域がん診療連携拠点病院に指定後、患者需要が伸びてきており、回診患者数は上半期実績が2,070人と目標数値（1,800人）を大幅に上回る見込みです。（昨年度3,120件・今年度見込4,140件）また、地域周産期母子医療センター、精神科救急医療基幹病院、認知症疾患医療センター等高度かつ専門的な医療の提供を医師、看護師等の医療スタッフがー丸となって行っています。	
【取組項目（4）医療安全の確保・拡充】 医療事故の未然防止及び原因究明や再発防止に積極的に取り組むため、インシデントレポートの収集と情報の分析を行い、レポートの提出数は、上半期実績が3,388件報告があり、昨年度と同様に高い数値を見込んでいます。（目標値4,000件、昨年度実績6,123件）また、院内感染対策を徹底するため発熱患者との動線を分けて診察、検査等の対応を行っています。	
【今後の方向性】	
【取組項目（1）救急・災害医療機能の強化】 三次救急搬送患者の応需については、高いレベルを維持して、地域の基幹病院として「断らない救急」を継続していきます。また、プレホスピタル活動を充実させるため、救急ワークステーション設置に向けて消防局と連携、協議を行い、救急・医療チームを事故現場等へ迅速に派遣できるよう機能を強化していきます。また、救命救急センター棟の新築による設備面の強化と人材確保を行い、より効率的に受入れができる体制を整えます。 災害拠点病院として、災害時に必要となる医療機能を安定的に提供するため、入院患者、医療スタッフの災害時に必要な食糧等の確保を継続して行います。	
【取組項目（2）がん診療機能の強化・拡充】 がん診療機能の強化・拡充を図るため、手術・放射線治療・化学療法等の推進、緩和ケア医療の充実、がん相談体制の充実に取り組めます。	
【取組項目（3）高度専門医療の確保・充実】 高度かつ専門的な医療を提供できる医療機関として、複数の医療専門職が連携して治療やケアにあたるチーム医療を推進します。	
【取組項目（4）医療安全の確保・拡充】 医療事故の未然防止及び原因究明や再発防止に積極的に取り組むとともに、院内感染対策を徹底し、質の高い安全で安心な医療を提供します。	

※原則R7.4月～9月(6か月間)の実績値を記載しております。
※年度途中の算出が難しい項目は「－」としております。

施策2 地域完結型医療の推進

川崎病院

取組項目	令和7年度の主な取組内容	取組目標名	R7年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R6年度実績値
取組項目 医療機能の分化・連携と地域包括ケアシステムの推進							
①地域医療連携の推進	①外来患者の紹介・逆紹介の推進 ②二次、三次救急の強化のための体制整備 ③南部小児急病センターを含めた小児科初期救急のあり方を検討 ④連携登録医療機関制度の推進 ⑤地域医療連携の会の開催 ⑥他院からの緊急受診応需率向上の取組の推進 ⑦患者の受療状況データの分析・活用による戦略的な医療機関訪問	地域連携クリニカルパス適用件数	60件	39件	78件	130.0%	50件
		他院からの緊急受診応需率	84.0%	71.1%	71.1%	84.6%	64.8%
		通院不要的退院率	45.0%以上	42.6%	42.6%	94.7%	41.9%
②地域包括ケアシステムの推進	①地域のお医療施設からの急性期患者の受入れ ②研修会開催、出前講座の実施 ③看護師、薬剤師、管理栄養士による入院前外来の強化 ④入退院支援係、医療福祉相談係との連携	地域医療従事者等との研修会、症例検討会の開催回数	39回	6回	12回	30.8%	20回
		入退院支援加算算定件数	8,000件	4,565件	9,130件	114.1%	8,651件
		入院時支援加算算定件数	3,350件	1,753件	3,506件	104.7%	3,268件
取組内容の状況と分析、今後の方向性							
<p>【取組内容の状況と分析】</p> <p>【取組項目 医療機能の分化・連携と地域包括ケアシステムの推進】</p> <p>地域医療機関のニーズにこたえるため、他院からの緊急受診応需率については昨年度に比べ改善し、71.1%の実績値ですが、目標値（84.0%）には及んでおりません。また、入退院支援加算算定件数は目標値、前年度実績を大幅に超える見込です。（目標8,000件、前年実績8,651件、見込9,130件）</p>							
<p>【今後の方向性】</p> <p>【取組項目 医療機能の分化・連携と地域包括ケアシステムの推進】</p> <p>地域医療機関から求められる緊急受診については、応需できる体制を維持するために、平均在院日数の短縮を行うことで、応需できる病床の確保を行います。また、地域における医療機能の分化に伴い、基幹病院として求められる高度、特殊な医療を確実かつ効率的に提供していくため「かかりつけ医制度」を推進し、地域医療機関へ逆紹介を進めます。</p>							

※原則R7.4月～9月(6か月間)の実績値を記載しております。
※年度途中の算出が難しい項目は「－」としております。

施策3 効果的・効率的な運営体制づくり

川崎病院

取組項目	令和7年度の主な取組内容	取組目標名	R7年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R6年度実績値
取組項目(1) 人材の確保・育成の推進							
①医療従事者の安定的な確保	①高度急性期病院として医療提供に必要な医師・看護師・医療技術職の確保 ②初期臨床研修医の確保 ③看護職人材確保のための広報活動の充実	医学生向け病院見学会の開催回数	15回	10回	17回	113.3%	21回
		看護学生向け病院見学会の開催回数	10回	9回	12回	120.0%	6回
		看護学校学生実習受入人数	480人	150人	500人	104.2%	457人
		医師、看護師以外の学生実習受入人数	11人	23人	17人	154.5%	17人
②職員の専門能力の向上	①資格取得支援の推進と、資格取得者への待遇改善に関する検討 ②事務職員の専門能力向上（診療報酬、情報セキュリティ、地域医療連携、経営企画力など）	院内研究交流会・看護研究発表会報告演題件数	90件	-	-	-	74件
		医療事務職による診療報酬関連研修会の実施回数	2回	0回	2回	100.0%	2回
		診療情報管理士等資格保持者人数（常勤）	6人	7人	7人	116.7%	7人
取組項目(2) 働き方・仕事の進め方改革の推進							
①働きやすい職場づくり	①あいさつや各部署における打合せ励行等による風通しの良い職場風土の醸成 ②時間外勤務時間の確認等による業務分担の見直し ③他職種によるタスクシフトの推進 ④新規採用者や異動者への精神的な配慮 ⑤紙の電子化による作業効率の改善	仕事と私生活のバランスが取れていると思う人の割合（思う＋やや思うの合計）	45.0%	10月調査	-	-	44.0%
②働き方改革の推進	①ＩＣＴを利用したオンライン会議・オンライン研修の活用 ②看護助手、医師事務作業補助者の活用 ③委員会開催やメンバー選定の定期的な見直しと午後５時以降の会議開催の縮減 ④産育休を活用する職員に対する復帰後を見据えた丁寧な説明 ⑤医師時間外労働の縮減 ⑥地域連携システムを活用したオンライン画像確認システムの運用	医師事務作業補助者人数（常勤換算）	31人	32人	32人	103.2%	31人
		看護助手人数（常勤換算）	75人	58人	75人	100.0%	59人
		時間外労働時間が年９６０時間を超える医師人数	41人以下	49人	45人	91.1%	40人
取組内容の状況と分析、今後の方向性							
<p>【取組内容の状況と分析】</p> <p>【取組項目（１）人材の確保・育成の推進】</p> <p>医師、看護師など医療従事者の病院見学会や実習を積極的に行い、目標数値（医師 目標15回 推定17回 看護師 目標10回 推定13回）は達成する見込みです。また、医療事務職を採用し1名増員しました。</p> <p>【取組項目（２）働き方・仕事の進め方改革の推進】</p> <p>医療従事者の業務負担軽減を図るため、医師事務作業補助者や看護補助者の確保に努め、引き続き、採用、増員する予定です。また、医師の働き方改革については、医師労働時間短縮計画に基づき、労働と研さんの切り分けを進め、時間外勤務の縮減や多職種を含めたタスクシフト/シェアを行い、業務の効率化ができるように努めています。</p>							
<p>【今後の方向性】</p> <p>【取組項目（１）人材の確保・育成の推進】</p> <p>引き続き、質の高い医療、看護を安定的に提供するため優秀な人材の確保に努めます。また、医療事務職を活用し、職員の専門能力の向上に取り組む、診療報酬の適切な確保に努めるとともに、医師確保のため、医師の待遇改善を実現していきます。</p> <p>【取組項目（２）働き方・仕事の進め方改革の推進】</p> <p>業務のタスクシフト/シェアを行い、さらなる時間外労働時間の縮減、医療の質の向上、業務の効率化を図っていきます。また、来年度受審する特定労務管理対象機関の指定更新に向けた準備を進めていきます。</p>							

※原則R7.4月～9月(6か月間)の実績値を記載しております。
※年度途中の算出が難しい項目は「－」としております。

施策4 患者に優しい病院づくり

川崎病院

取組項目	令和7年度の主な取組内容	取組目標名	R7年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R6年度実績値
取組項目 患者サービスの向上							
①積極的な情報発信の推進	①ホームページ等を活用した情報提供 ②広報誌やデジタルサイネージの活用 ③クリニカル・インディケーター（臨床指標）の公表	広報誌（「くすの木」）発行回数	4回	2回	4回	100.0%	4回
		市民公開講座開催回数	6回	2回	6回	100.0%	7回
②診療環境の向上	①患者満足度調査、報告会の実施 ②患者満足度調査報告を基にしたサービス向上委員会の開催及び各部門へのフィードバック ③外来待ち時間を長く感じさせないような環境整備の推進	サービス向上委員会の開催回数	12回	6回	12回	100.0%	11回
		外来待ち時間調査の実施	2回	1回	2回	100.0%	2回
③外国人への対応	①外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）の取得に向けた環境整備 ②派遣医療通訳、双方向通訳デバイス、電話医療通訳、ビデオ医療通訳など様々な手法を用いて、状況に応じた柔軟な対応を行うことによる円滑なコミュニケーション環境の維持・運用 ※①については令和6年度に取得済	かながわ医療通訳派遣システム利用件数	500件	391件	782件	156.4%	628件
④相談体制の強化	①院内投書や市長への手紙等への適切な対応 ②アドボカシー相談への適切な対応	院内投書のうち御礼を含む投書件数	50件	21件	42件	84.0%	57件
取組内容の状況と分析、今後の方向性							
<p>【取組内容の状況と分析】</p> <p>【取組項目 患者サービスの向上】</p> <p>外国人患者が安心安全に医療を受けるため、かながわ医療通訳派遣システムの利用数は、上半期実績が391件と目標数値、昨年度実績を上回る件数で利用されています（目標値500件、昨年度実績628件）。昨年6月に認証された外国人患者受入れ認証制度（JMIP）を川崎病院が取得したことについて、地域に周知されてきたものと考えます。今年度も医師、看護師等の医療スタッフのメンバーで検討委員会を行い、説明同意書やホームページの外国語対応等の取組を行っています。</p>							
<p>【今後の方向性】</p> <p>【取組項目 患者サービスの向上】</p> <p>患者本位のわかりやすい医療の提供については、病院の医療機能や患者が必要とする情報の積極的な発信、相談部門の強化に努めます。在住外国人や訪日外国人患者のサービス向上においては、外国人患者の的確な対応を図り、同意書などの外国語対応、医療通訳の調整など外国人患者受入認証制度（JMIP）の来年度の更新に向けた取組を進めます。</p>							

※原則R7.4月～9月（6か月間）の実績値を記載しております。
※年度途中の算出が難しい項目は「－」としております。

施策5 地域・社会への貢献

川崎病院

取組項目	令和7年度の主な取組内容	取組目標名	R7年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R6年度実績値
取組項目 地域・社会への貢献							
①医療職の育成	①医師臨床研修の実施 ②専門研修プログラムの実施 ③地域医療機関医療従事者を対象とした症例検討会・研修会の開催	他院からの臨床研修医受入人数	7人	9人	17人	242.9%	5人
		当院の基幹型プログラム参加専攻医数（D3）	9人	10人	10人	111.1%	10人
		地域医療従事者等との研修会、症例検討会の開催回数（再掲）	39回	6回	12回	30.8%	20回
		感染対策出前講座の実施回数	11回	2回	11回	100.0%	10回
②医療系学生の教育支援	①大学医学部学生の実習受入 ②看護学校学生の実習受入 ③大学薬学部学生の実習受 ④中学校・高等学校学生の職場体験受	大学医学部学生実習受入人数	18人	32人	37人	205.6%	11人
		看護学校学生実習受入人数（再掲）	480人	150人	500人	104.2%	457人
		大学薬学部学生実習受入人数	8人	8人	8人	100.0%	6人
③研究活動と学会発表、論文発表、治験参画	①学会活動への支援 ②治験参画の推進 ③産学官連携臨床研修への協力	学会発表件数	180件	-	-	-	147件
		論文発表件数	40件	-	-	-	42件
		治験協力件数	5件	-	-	-	5件
④市民に対する医学知識の普及啓発	①市民公開講座の実施 ②医療従事者向け研修会の実施	市民公開講座開催回数（再掲）	6回	2回	6回	100.0%	7回
⑤環境を意識した病院運営	①エネルギーサービス（高効率な新しいコージェネレーションシステムなど）の運用管理 ②効果的、効率的な熱源設備の運用管理 ③脱炭素に係る取組の更なる推進 ④電気、ガス、水、紙など資源の節約	L E D照明の導入割合	100.0%	100%	100%	100.0%	90.0%
取組内容の状況と分析、今後の方向性							
<p>【取組内容の状況と分析】</p> <p>【取組項目 地域・社会への貢献】</p> <p>今年度の初期臨床研修先を決める医師臨床研修マッチングの中間結果によると、全国の市中病院と大学病院分院の中で、当院を希望する人数は60人と神奈川県で1位、全国で3位タイの数値となりました。</p> <p>また、医師、看護師、薬剤師の学生実習を積極的に受け入れ、受入れ実績数は目標値に達する見込です。（医学生 目標18人推定37人、看護学生 目標480人推定500人 薬学生 目標8人推定8人）</p> <p>さらに、病院内の照明のLED化につきましては、外来、病棟の交換をすべて行い、導入割合が100%になりました。環境に適した照度により省エネ効果が見込まれます。</p>							
<p>【今後の方向性】</p> <p>【取組項目 地域・社会への貢献】</p> <p>引き続き、地域住民、地域の医療従事者へ健康保持のための医学知識の普及啓発等に取り組みます。地域の医療従事者の指導、育成については、地域、社会への貢献として、取組を推進します。</p> <p>川崎病院医療機能再編整備計画に基づき脱炭素・循環型の持続可能なまちづくりを目指し、エネルギー消費の削減につながる取組を推進します。</p>							

※原則R7.4月～9月（6か月間）の実績値を記載しております。
※年度途中の算出が難しい項目は「－」としております。

施策6 強い経営体質への転換

川崎病院

取組項目	令和7年度の主な取組内容	取組目標名	R7年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R6年度実績値
取組項目(1) 収入確保に向けた取組の推進							
①診療報酬の適切な確保	①時間外・休日夜間緊急手術加算1等の経営的効果の大きい施設基準の取得 ②取得済み加算の要件管理 ③各診療科の稼働状況の分析 ④全国の平均在院日数（Ⅱ期間）の把握と在院日数の短縮 ⑤経営企画及び経営分析 ⑥弁護士を活用した滞納債権回収及び未収金催告・督促の適正な実施	新たな施設基準の取得件数	10件	3件	6件	60.0%	34件
		経営的視点からのクリニカルパスの作成・修正件数	20件	2件	10件	50.0%	13件
		DPC入院期間Ⅰ・Ⅱ期の退院割合	65.0%	64.0%	65.0%	100.0%	62.0%
②医療資源の効率的な運営	①午前退院、午後入院の推進、柔軟な病床管理 ②効率的な手術室の使用、及び適切な人員配置 ④緊急手術への対応の強化	日勤時間内の手術室稼働率	54.0%	60.6%	60.6%	112.2%	60.2%
		緊急手術件数	970件	624件	1,248件	128.7%	1,267件
取組項目(2) 経費節減・抑制の強化							
①経費節減・抑制に向けた取組の推進	①コンサルタント業者と協働した薬剤費、診療材料費の価格交渉の推進 ②医療機器保守契約委託料の見直しや削減	コンサルタント業者と協働した薬剤費、診療材料費の価格交渉の実施回数	10回	6回	10回	100.0%	11回
		医療機器購入時における保守契約を含めた合併入札の実施率	50.0%	50.0%	50.0%	100.0%	50.0%
②適正な医療機器整備の推進	①必要性、収益性を吟味した購入審査 ②適切な価格交渉、価格低減 ③計画的な高額医療機器の取得、更新						
取組項目(3) 経営管理体制の強化							
①経営管理体制の強化に向けた取組の推進	①財務・コスト管理の実施 ②医療経営に携わる人材育成 ③職員への適切な情報発信、職員の意識改革 ④自院の担うべき診療体制の検討 ⑤月次決算状況及び年次決算見込みの把握 ⑥院長メッセージによる運営方針や経営状況の発信 ⑦現場職員の声を吸い上げ、改善点の提案 ⑧新しい診療領域や運営方法の開拓	診療科等ヒアリングの実施回数	2回	1回	2回	100.0%	2回
		病院経営戦略会議の開催回数	12回	6回	12回	100.0%	12回
②医療情報・情報機器の一括管理体制の構築	①院内各医療情報システムの一括管理を行う部門の設置及び医療情報分析作業の一元化の推進 ②各医療情報システムの導入・更新時の評価 ③医師事務作業補助者向け医療情報等に関する研修の開催及び業務支援 ⑤診療現場からの改善要望への迅速な対応（操作性・閲覧性改善） ⑥経営判断に資する分析データ資料の作成						

※原則R7.4月～9月(6か月間)の実績値を記載しております。
※年度途中の算出が難しい項目は「－」としております。

取組項目	令和7年度の主な取組内容	取組目標名	R7年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R6年度実績値
取組項目(4) 施設・設備の適正管理							
①施設・設備の適正管理	①空調機の段階的なオーバーホールの実施 ②空調設備の故障回数の削減 ③電気、医療ガスなど設備の定期点検	昇降機設備のオーバーホールの実施	9機	準備（11月スタート）	7機	-	準備
		受変電設備のオーバーホールの実施	10%	準備（10月入札）	30%	-	設計
		電気設備点検の実施	1回	0回	1回	100.0%	1回
		医療ガス設備の年次点検の実施	4回	2回	4回	100.0%	4回
②医療DX及び医療情報セキュリティの強化	①地域医療連携システムの利用促進 ②医療情報システムを介した大学等との診療連携・研究支援 ③病院職員への情報セキュリティに関する研修の実施 ④医療情報システムがダウンした場合に備えた対策訓練の実施 ⑤バックアップシステムの構築 ⑥専門知識を持つ職員の育成	医療情報に関する研修会の開催回数	1回以上	0回	1回	100.0%	1回
		情報セキュリティに関する研修会の開催回数	1回以上	0回	1回	100.0%	1回
		システムダウンに備えた訓練の実施回数	1回以上	0回	1回	100.0%	1回
取組内容の状況と分析、今後の方向性							
<p>【取組内容の状況と分析】</p> <p>【取組項目（1）収入確保に向けた取組の推進】</p> <p>新規施設基準の届出は、肝臓がん・結腸がんのロボット支援手術など、3件行いました。また、日勤帯での手術室稼働状況としては60.6%と高い数値を維持しています。（目標値54.0%）</p> <p>【取組項目（2）経費削減・抑制の強化】</p> <p>質の高い医療を維持することを前提にコンサルタント事業者と共同し、材料費高騰の中、薬剤費、診療材料費の単価を削減する取り組みを行っています。</p> <p>【取組項目（3）経営管理体制の強化】</p> <p>各診療科と院長ヒアリングを行い、診療科別での目標稼働額を設定し、診療稼働額における指標を作成しました。また、四半期ごとに行う「院長メッセージ」の中で病院の経営状況や課題等に係る情報共有を行っています。</p> <p>【取組項目（4）施設・設備の適正管理】</p> <p>医療ガス設備の年次点検は計画どおり2回実施し、受変電設備は10月に入札開始し、昇降機施設は11月から実施の予定です。</p>							
<p>【今後の方向性】</p> <p>【取組項目（1）収入確保に向けた取組の推進】</p> <p>川崎病院経営戦略会議では各診療科の課題報告や稼働状況の分析等を行い、診療報酬の適切な確保及び医療資源の効率的な運営を行っていきます。</p> <p>【取組項目（2）経費削減・抑制の強化】</p> <p>医療材料等のより安価な同等品切り替えや、適正な在庫管理に努めます。また、質の高い医療を提供、維持するために医療機器の購入にあたっては必要性・収益性を十分検討した上で行い、購入後は稼働状況について調査していきます。</p> <p>【取組項目（3）経営管理体制の強化】</p> <p>「院長メッセージ」により病院職員の経営意識の醸成を進めます。また、機器の導入・管理及び医療情報の集約による経営分析を行うため、医療情報システムを一括管理する部門を拡充し、効率的な業務改善を行うとともに、医療情報セキュリティの強化を行います。</p> <p>【取組項目（4）施設・設備の適正管理】</p> <p>機器の老朽化が進む中、今後とも適正な管理体制を強化していきます。また、今後進んでいく医療DX化については診療報酬の状況を考慮して適切に推進していきます。</p>							

※原則R7.4月～9月(6か月間)の実績値を記載しております。
※年度途中の算出が難しい項目は「－」としております。